



— 骨粗鬆症診療連携の推進 —



東北労災病院 連携広報誌

Vol.6
2026.March

はじめに

当院では骨粗鬆症の治療率・治療継続率の向上を目的に東北労災OLS（Osteoporosis Liaison Service）を運用し、院内FLS（二次骨折予防）介入を積極的に行っています。OLSは日本骨粗鬆症学会が提唱する**多職種連携**で、骨粗鬆症マネージャー（学会レクチャー＋認定試験）により推進されています。現在、**8名の骨粗鬆症マネージャー**が在籍し、活動しています。



現状と課題

骨粗鬆症患者は約1,590万人、治療率は約20%に留まります。急性期病院単独では退院後フォローや治療継続支援、一次骨折予防が課題で、**地域のかかりつけ医の先生方との連携が鍵**です。

診断の基本ポイント

脆弱性骨折あり：椎体／大腿骨近位部骨折は**骨密度に関わらず骨粗鬆症**。

その他の脆弱性骨折既往がある場合は、**YAM 80%未満**で骨粗鬆症と診断します。

脆弱性骨折なし：**YAM70%以下（-2.5SD以下）**で骨粗鬆症。

診療所においては骨密度測定装置を保有していないケースも多く、検査体制がボトルネックとなる可能性があります。この課題を解決するため、当院ではDXA検査の共同利用システムを構築しました。

CT/MRI共同利用
始めます！



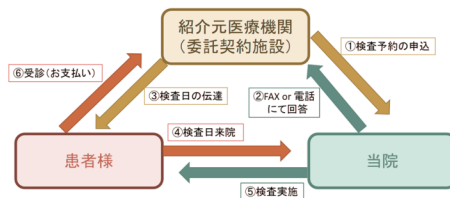
— DXA、CT/MRI共同利用 —



共同利用とは

共同利用は紹介診療と異なり、貴院診療室と当院中央放射線部が直接連携する方式です。**診療情報提供書・初診料は不要**で、待ち時間と患者負担の軽減につながります。

ご利用には**事前契約**が必要です。下記のQRコードからお申込みいただくか地域医療連携センターへお問い合わせください。後日、委託契約書2部と関連書類を郵送します。内容をご確認のうえ押印し2部とも返送ください。当院で確認後、1部を返送し、これをもって契約締結とします。



予約枠について

■ DXA

午前：平日（月～金）8時40分～10時20分の間に**6枠**
午後：平日（月～金）14時00分以降に最大**8枠**

■ CT/MRI

午後：平日（月～金）14時30分～16時10分の間に**8枠**

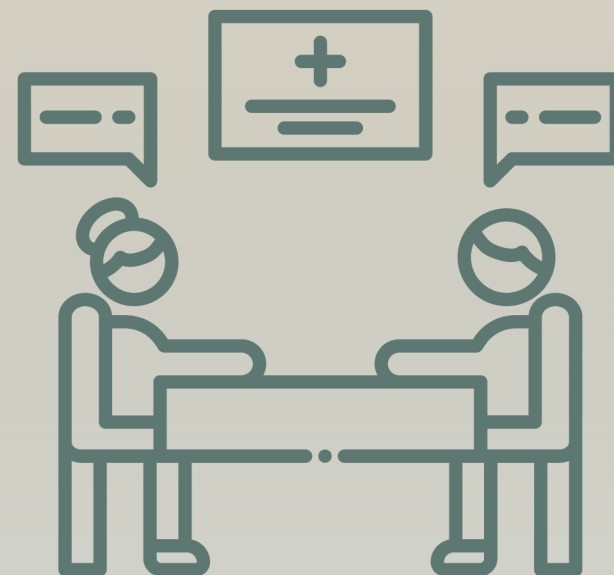
DXA、CT／MRIの共同利用にご関心の医療機関様は、右のQRコードからお申し込みください。



お問い合わせ先
地域医療連携センター
☎ 022-275-1467
[受付時間] 平日8:30-16:00

Ro-sai

病院を愛し、
病人を愛し、
向上を愛し、
勤労を愛す



個々の患者さんに最適な方法を検討し、低侵襲かつ安全で安定したTHAに取り組んでいます。

CONTENTS

股関節・膝関節疾患に対する当院の診療体制 /
骨粗鬆症診療連携の推進 / DXA、CT/MRI共同利用

患者紹介に関しまして、ご不明な点がございましたら地域医療連携センターまでご連絡ください。



022-275-1467



0120-772-061 (2026年4月末まで)
022-275-1092 (2026年5月初より)

独立行政法人
労働者健康安全機構
東北労災病院
TOHOKUROSAI HOSPITAL



股関節・膝関節疾患に対する当院の診療体制 — ROSA・Makoを活用した人工関節治療 —



写真左より、千葉大介医師、國井知典医師

東北労災病院では、股関節と膝関節の人工関節手術において、手術支援ロボット「ROSA」と「Mako」を導入し、それぞれの特長を生かした治療を行っています。

■ 股関節センター

当院は2023年7月1日に「股関節センター」を開設し、**2024年度の人工股関節置換術（THA）件数は、全国32労災病院の中で第1位の実績**があります。股関節分野で ROSA と Mako の両方を備える医療機関は全国でも数カ所のみであり、当センターではそれぞれの特徴を踏まえて手術方法を選択しています。

各メーカーの手術支援ロボットと人工関節は基本的に一体となっているため、「そのロボットを使うときは、そのメーカーの人工関節しか使えない」という制約が生じます。

ROSAは、豊富な種類のインプラントを有するメーカーの手術支援ロボットであり、患者さんの骨の形や年齢などに合わせてインプラントを細かく選択できるため、より適したものを提案しやすいという利点があります。

Makoは、術前に撮影したCT画像を用いて三次元的に手術計画を立て、その計画どおりにロボットアームでカップを設置するシステムです。インプラント設置精度は、**現存する手術支援ロボットの中で最も高い**とされています。

一方で、ロボットを使用せず、ポータブルナビゲーションなどを用いて行うTHAの成績も良好です。症例によっては、手術支援ロボットではなく、こうした方法の方がより適している場合もあります。

当センターでは、従来より最小侵襲手術（MIS：Minimally Invasive Surgery）によるTHAを行ってきました。MIS-THAは、従来の手術方法と異なり、筋肉や腱をできるだけ切らずに手術を行う方法であり、**術後の回復が早い**といわれています。

複数の選択肢の中から、**個々の患者さんに最も適した方法**と一緒に検討し、手術侵襲の少ない方法で、安全かつ再現性の高いTHAの施行を目指しています。

✓ 外来受診時の注意点について

当センターは **月曜日、水曜日** が外来日になっております。

お気軽に「股関節センター・膝関節センター」宛へご紹介くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

関節リウマチなど炎症性疾患を背景とする股関節疾患の患者さんは原病の管理と手術適応の検討を含め、「リウマチ関節外科」宛のご紹介を検討ください。

皆様には、今後とも適切なご紹介・ご相談を賜れましたら幸いです。



手術室



リハビリテーション室

■ 膝関節センター

膝疾患は、10代から高齢者まで、幅広い年代にみられます。当院は**2024年に「膝関節センター」を開設**し、膝関節鏡手術から人工膝関節置換手術まで、**幅広く対応できる体制を整えています**。

人工膝関節置換術の件数は**全国32労災病院の中で第3位**であり、股関節と同様に膝手術も年々増加しています。膝関節センターでも手術支援ロボットやナビゲーションを併用したコンピューターアシスト手術を積極的に取り入れて、低侵襲かつ精度の高い治療を患者さんに提供しています。

ROSAによる膝の手術では、骨の切り方を高い精度でコントロールできただけでなく、膝の靭帯など周囲の軟部組織のバランスを手術中に確認しながら微調整できます。その結果、単に脚をまっすぐにするだけでなく、**患者さん本来の膝の動きに近づくことを意識した人工膝関節の設置が可能**になります。

Makoは、膝周囲の筋肉や靭帯などの軟部組織を**できるだけ傷つけず、骨だけをロボットアームで正確に切除できる**システムです。出血が少なく、術後の痛みを抑えやすく、リハビリテーションがスムーズに進みやすいことが期待されています。

ROSAだけでも多くの症例に対応できていましたが、Makoを導入したことで**人工関節の形状や機能の選択肢がさらに増えました**。膝の変形の程度や骨の質、患者さんの活動性などに応じて、**より適したインプラントとロボットの組み合わせ**を選べるのが、当院膝関節センターの強みとなっています。